

# 広島県公共交通移動活発化検討会での8年間の取組み

山田和孝・為重直子／広島県地域力創造課 山岡弘和・中村太覚／公益社団法人広島県バス協会 宮地岳志・岡田あかね／(株)バイタルリード

## 概要

広島県では、各種交通事業者と行政からなる「広島県公共交通移動活発化検討会」を2012年に設置、公共交通に係る利便性の向上等について検討し、多様な移動活発化策に取り組んでいる。

< 構成員 >

- 西日本旅客鉄道(株)広島支社
- 広島電鉄(株)電車事業本部
- 広島高速交通(株)
- (公社)広島県バス協会
- 広島電鉄(株)バス事業本部
- (株)中国バス
- 備北交通(株)
- 広島県旅客船協会
- 全日本空輸(株)広島支店
- 日本航空(株)広島支店
- (一社)広島県観光連盟
- 中国運輸局
- 広島市
- 江田島市
- 安芸太田町
- 広島県警察本部 (オブザーバー)
- 広島県

## 背景

広島県内の公共交通は、路線バス45社の他、鉄道、軌道、旅客船、航空機といった多数の事業者によって支えられている。

一方、事業者が多いがゆえに、情報がまとまらず利用者にわかりにくい側面があった。

## 公共交通移動活発化に向けて

新型コロナウイルスによる苦境打破の取組み



災害時交通情報提供

標準的なバス情報フォーマットの利活用



「スマホdeのりものスタンプラリー」

公共交通でスポットをめぐり、スマホアプリでスタンプをゲット。

「広島たびパス」リニューアル デジタル版も!



「広島たびパス」発売開始  
広島ピースパスの後継。エリア拡大し宮島のフェリーや高速バス対象に。

(年度)  
2020  
R2

2019  
R1

モニタリング・検証

バスロケ簡易表示器の設置拡大



観光・イベント・施設等との情報連携



「のれバスて〜き」開始  
環境定期券制度を改称、7社で共通利用可能に



「FISE広島2018 開催記念周遊券」発売



2018  
H30

2017  
H29

広島駅新幹線口に交通案内所開設



データ活用



ICカード「PASPY」10カード片利用開始

2016  
H28

広島駅南口に交通案内所開設



サイクリングとの連携



スマフォトロゲイニングは  
広島イベントとして定着

活用策の検討



交通券の実験

対象店舗で買物した方へ広電電車・路線バスに使用可能な「交通券」を進呈。

「広島ピースパス」発売開始  
広電電車とバス6社の1日フリー乗車券

2015  
H27

交通結節点の案内板改善



改善策の提案



バスロケ  
全県導入

BUSit 導入。バスロケ表示器やスマホでもバスの接近状況がわかるように

バス共通路線番号の導入  
広島都市圏のバス9社が統一ルールで運用を開始。



2014  
H26

自己改善の仕組みづくり

事業者自らが他事業者と連携して課題を発見、改善策を推進できるように仕組みを定着化



バス停名に副呼称を追加  
複数個所にのりばがある紙屋町・八丁堀に副呼称を設定

「スマフォトロゲイニング」開催  
乗換検索を駆使して楽しむ1 day イベント。2018年度まで毎年実施。

「菓子博散策きっぷ」

広島市で開催された全国菓子博と連動、多モードの共通フリーチケット(4枚綴り)を販売。

2013  
H25

乗換検索の充実

中山間地域のバス路線、生活航路、市町運行路線のデータを整備→県内すべての公共公共交通が検索可能に

2012  
H24

検討会の活動当初は必ずしも全員が積極的ではなかったが、小さな成功の積み重ねが当事者の心に火をつけ、活動の継続・発展につながってきた。交通需要の純増に繋がる具体的な取組を実施し、自己改善を続けてきたことこそが本検討会の成功の一因と考えられる。検討会は今年9年目を迎え、今後も時代とともに変わる新たな課題に向かい動いていくことが期待される。